

No. 1245

企業 zoom up

株式会社 三幸

半導体市場で
ニッチなモノづくりの挑戦を

半導体需要の高まりを背景に、コロナ禍でも堅調な業績推移を見せているのが今回紹介する(株)三幸だ。

1969年に設立し、当初はカーボン製品の商社としてスタートしたが、「カーボンメーカーが商社を通さずにお客さまに直接販売することが増え、商流が変わってしまった」と話すのは当社代表の奥野氏。業績を回復すべく80年代半ばから半導体製造設置用部品の取り扱いを開始した。その後、2000年ごろに2代目社長がモノづくりへの挑戦を始めたことをきっかけに、現在はカーボン、セラミックス、精密機械製品を3本柱として製造しているほか、半導体工場内での器具の開発、半導体製造装置関連部品の開発および設計も手がけている。

当社のカーボン製品は、半導体のベースとなるシリコンの単結晶を作る装置で使用されるヒーターや坩堝などで使用されている。セラミックス製品は、加熱することでウエハー（ICチップの材料となる、半導体物質の結晶でできた円形の薄い板）内に半導体化するための不純物を拡散させる酸化拡散装置や、ウエハーに適度な不純物を導入し半導体デバイスの特性を向上させることができるイオン注入装置の部品に使われている。そして、精密機械製品はウエハーの酸化の工程で、ウエハー表面処理装置の一部のユニット品として使われている。

精密機械製品分野では、半導体製造向けだけでなく、お客さまのニーズに応じてさまざまな用途の装置を製造している。主なターゲットは、大学の研究室や企業の研究開発部門だ。それらの現場では、小規模な装置で研究をスタートさせるが、世の中にないものを作る研究のため、既存の装置では対応が難しく、改造する必要がある。通常はそこで高額な費用と長い納期を要求されてしまうが、「当社であれば、中小企業であることを活かした少量多品種の装置の製造が得意ですから、お客さまのニーズに寄り添った、専用の装置を設計し

「公私ともに『新しいことを始める』がモットーの奥野社長。今年はゴルフに挑戦したいと話していた」



て、細かな修正を施しながら、迅速に納品することができます」(奥野氏)。研究者の気持ちを汲んだ当社のモノづくりの姿勢が評価され、今では自社製品の精密機械事業が売上構成比率の約8割を占めているという。

こうした精密機械製造に加え、現在注力しているのが「素材」の分野だ。主には、放射線を遮断する素材の開発。これまでの半導体分野で蓄積してきた装置や素材の開発力を活かしながら取り組んでいる。「ニッチではありますが、モノづくりの根底である素材分野へのビジネス展開が必要だと思っています。既存の市場にはない製品を作りたいですし、作るだけでなく、使ってもらえる高品質な製品を展開したいです」(同)

現在は製造拠点として富山と熊本に3工場を有しているが、今後はエリアごとに迅速に対応できるよう、新潟や仙台にも工場新設を進める予定だ。

技術革新が著しい半導体市場。時代のニーズに応え挑戦し続ける当社は、今後も新しいモノづくりが求められる未来で、欠かせない存在になるだろう。

(取材・文／情報統括部 八木原 萌子)

会社概要

(株)三幸

TDB企業コード：982069105

法人番号：3010401068269

東京都港区浜松町2-5-5

電話：03-5403-9250

代表：奥野 敦氏

設立：1969年2月

資本金：2000万円

事業内容：カーボン、セラミックス、精密機械製品の製造

年売上高：約26億6500万円（2021年12月期）

<https://www.kk-sanko.co.jp/>

HPはこちらから